

Geospatial.jp G空間情報センター

ニュースレター 第49号 2025年5月発行

【目次】

- [1. 大規模災害時に迅速に民間データを WEB 地図提供する社会実験のご紹介](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2025.3.1-4.30\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. PLATEAU 3D 都市モデル作成のデータ・カバレッジ拡大へ ～3D 都市モデル自動作成ツール B 版サービス実証開始～](#)
- [5. お知らせ・AIGID 幹事会員募集](#)

1. 大規模災害時に迅速に民間データを Web 地図提供する社会実験のご紹介



一般社団法人
社会基盤情報流通推進協議会

大伴真吾

一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会（以下、AIGID）では、2019年から大規模災害が発生した際に、状況把握・救難・復旧・復興に役立てていただくためにリアルタイム災害情報を提供しています。この取り組みをさらに拡大、2024年7月から最短で24時間以内に各種民間データを公開していく社会実験（<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000027.000069280.html>）を開始しましたので、この取り組みについて、ご紹介させていただきます。

これまでのリアルタイム災害情報は、事前にデータ提供契約を結んだパイオニア株式会社の車両通行実績データ、航空写真測量会社の朝日航洋株式会社、アジア航測株式会社、国際航業株式会社、株式会社パスコから航空斜め写真データを提供してもらっていました。

特に、航空斜め写真データは、各社のご厚意で提供いただいております、災害が発生してからデータ提

供までの時間や提供写真の数量は各社にお任せ、データの2次利用も各社それぞれのライセンスが設定されており、継続性や使い勝手に問題がありました。

このような中で、東京大学空間情報科学研究センターが、2023年に戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期の課題「スマート防災ネットワークの構築」において採択されたサブ課題A「災害情報の広域かつ瞬時把握・共有」の研究開発機関となり、「産官学連携による評価・検討用プラットフォーム構築の研究開発」を開始、AIGIDが協力機関として参加しました。そこで、これまで民間データの収集・利用の課題を解決するために、これまでのデータ提供契約内容の見直しを各社と協議の上行いました。見直しのポイントは、発災後にできるだけ早いタイミングで、かつ、十分なデータの数量を提供いただくために、提供までの時間に応じた対価をAIGIDが支払うことにしました。ただし、この協定を結んだからといって、必ずデータを提供しなければならないというものではありません。さらに、各社提供データの2次利用ライセンスの内容、手続き方法がバラバラでわかりにくかったため、わかりやすい言葉で表現、手続きも可能な限り少なくしました。

さらに、株式会社ドコモ・インサイトマーケティングと協定を結び、人口統計データであるモバイル空間統計の提供を受けることになりました。モバイル空間統計は、ドコモの携帯電話ネットワークを使用して作成される人口の統計情報で、500mメッシュ単位の、1時間ごとの人口のデータです。このデータをWeb地図として表示することで、どの場所で人がどの程度滞留しているかを把握することができます。

このような仕組みを設け、できるだけ早く民間データを収集、Web地図情報として提供するのがこの社会実験です。

2025年4月時点で大規模災害時のデータ提供協定を結んでいる民間企業とその内容は次のとおりです。なお、ここでいう大規模災害とは、県域範囲で被害が及ぶような災害で、情報提供の開始はAIGIDが判断します。

データ種類	提供社	提供タイミング	公開期間	2次利用
人口統計情報	株式会社ドコモ・インサイトマーケティング	発災後平日24時間以内	発災後1カ月	利用者・目的限定 ^{*1}
車両通行実績	パイオニア株式会社	発災後1時間後	発災後1週間	有償
航空斜め写真	朝日航洋株式会社	発災後24～48時間以内（天候等による遅延あり）	制限なし	要許諾申請 ^{*3}
	アジア航測株式会社			目的限定 ^{*2}
	国際航業株式会社			要許諾申請 ^{*3}
	株式会社パスコ			
	中日本航空株式会社			

^{*1} 利用者・目的限定：AIGIDが主催する「民間事業者によるリアルタイム災害情報提供研究会」メンバーに限り、当該災害関連分析目的で利用できます。

^{*2} 目的限定：研究目的に限って申請なしで利用できます。

^{*3} 要許諾申請：提供者に利用申請を行い、許諾を得る必要があります。

社会実験の開始を始めてから、大規模災害が2回ありました。令和6年7月25日大雨災害では秋田県と山形県を対象に、令和6年9月21日能登地方大雨災害では石川県を対象にリアルタイム災害情報提供を行いました。



図1：災害モード時のG空間情報センターのトップページ



図2：車両通行実績データ、人口統計データ及び航空斜め写真データを表示した例

それぞれの災害時において、車両通行実績データと人口統計データは、翌日午前10時までは前日の24時間分のデータを地図情報として配信することができました。航空斜め写真は、被災地の救難捜索状況や天候によって航空機が飛行できる機会がその都度変わりますが、発災後50～100時間以内に合計200枚以上収集・公開することができました。車両通行実績データと実行統計データは、協定に従って現時点ではWeb地図情報として閲覧はできませんが、航空斜め写真は、過去の災害分も閲覧することができます。

このように、民間企業が持つデータを、発災時にできるだけ早く収集し、Web 地図情報として提供する社会実験は、一定の成果を得ることができました。今後は、引き続き社会実験を通じて取り扱いデータをさらに増やすとともに、リアルタイム災害情報提供サイトを被災自治体、被災者あるいは支援者など、関係する多くの方々に見ていただき、現状把握や復旧・復興に役立てていただきたいと思います。そのための手段として、これまで以上に SNS を効果的に使ってのタイムリーな情報発信も行なってまいります。

■本件お問い合わせ先

民間事業者によるリアルタイム災害情報提供研究会事務局

Mail : disaster-info@aigid.jp

2.上位アクセス状況(集計期間：2025.3.1-4.30)

登録ユーザー数	110,093 名
期間アクセス数	981,419
登録組織数	708 件
データセット数	14,538 件
ファイル数	91,188 件

人気のデータセット

1	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
2	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
3	林野庁・CS 立体図 (能登地域 2024)
4	山形県道路空間点群データ
5	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ LP データ オリジナルデータ
6	長野県 _CS 立体図
7	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
8	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 渋谷区 (2023 年度)
9	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 新宿区 (2023 年度)
10	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山および静岡東部 点群データ

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[コチラ](#)

最終更新順データセット一覧は[コチラ](#)

*リンクを開く際、少しお時間がかかる場合があります。

4. PLATEAU 3D 都市モデル作成のデータ・カバレッジ拡大へ ～3D 都市モデル自動作成ツール β 版サービス実証開始～



株式会社リアルグローブ

CEO 大畑貴弘（中央）

COO 篠田正博（左）

CFO 川崎祐一郎（右）

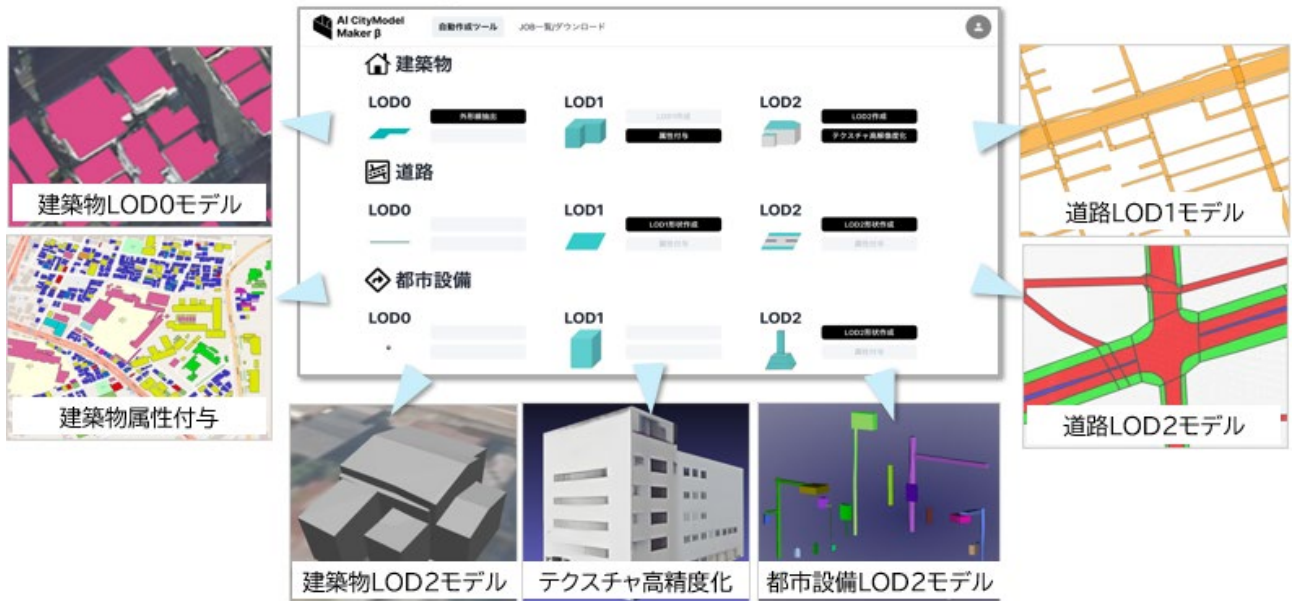
株式会社リアルグローブ（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：大畑 貴弘、以下 リアルグローブ）とアジア航測株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：畠山 仁、以下 アジア航測）は、共同で開発を進める「3D 都市モデル自動作成ツール」について、実用性検証を目的としたクローズドベータテストを開始します。本ツールは、国土交通省 Project PLATEAU 等で求められる 3D 都市モデル作成における生産性向上により、3D 都市モデルのデータ・カバレッジを拡大し、まちづくりのデジタル・トランスフォーメーションの推進に貢献することを目指します。

1. 3D 都市モデル自動作成ツール β 版サービスの概要

都市のデジタルツイン化が進む中、PLATEAU をはじめとする 3D 都市モデルの作成・更新は不可欠となりつつありますが、そのプロセスには依然として多くの手作業が介在し、業界全体の大きな課題となっています。特に、複雑な CityGML 形式の取り扱いや、LOD2 の詳細モデリング、テクスチャ貼付といった手作業による工程は、効率化が強く求められています。リアルグローブとアジア航測は、この現状を打破すべく、リアルグローブが持つ最先端のソフトウェア開発力・AI 技術と、アジア航測が長年培ってきた地理空間情報計測・処理に関する高度な技術と実務ノウハウを結集させました。特にアジア航測は、Project PLATEAU 発足当初からデータの仕様検討やユースケース開発に深く関与し、全国各地での 3D 都市モデル作成においても豊富な実績を有しています。

本ツールは、建築物 LOD0（外形線）/LOD1（高さ付与）/LOD2（屋根形状・テクスチャ自動生成）、道路 LOD1（構造点抽出）/LOD2（歩道等抽出）、MMS データからの都市設備 LOD2 抽出など、データ作成における特にボトルネックとなりやすい工程をターゲットに、自動化・効率化を支援します。

β版サービス 画面イメージ



2. クローズドベータテストについて

今回のクローズドベータテストでは、実際の業務環境やテスト環境等で本ツールをご試用いただき、その効果や改善点について貴重なフィードバックをいただくことを目的としています。ベータ版ユーザは、本ツールをいち早く業務で検証できるだけでなく、開発プロセスへのフィードバックを通じて、自社のニーズに合ったツールへと進化させる機会を得られます。初期段階（4月～6月）はアジア航測を含む数社の協力企業様と緊密に連携し、ツールの動作確認・有効性検証を行います。7月以降は、ご応募いただいた企業様の中から順次対象を拡大し、多様なユースケースでの検証を進めてまいります。測量、建設コンサルティング、GIS 関連事業等で、3D 都市モデル作成の効率化に意欲的に取り組まれている企業の皆様からのご応募を心よりお待ちしております。皆様からのフィードバックは、製品版リリースに向けた最終的なブラッシュアップに不可欠なものとなります。

※応募方法は、下段のリアルグローブニュースリリースサイトをご確認ください。

3. 今後の展望

リアルグローブとアジア航測は、本ツールのβテストを通じて得られた知見をもとに、システムの順次バージョンアップ、そして今後のフル機能版リリースを目指し、開発を加速させてまいります。本ツールは、Project PLATEAU が目指す「3D 都市モデル」の整備・活用・オープンデータ化を根幹から支え、まちづくり DX に不可欠なデジタル・インフラ構築に貢献するものと考えております。将来的には、入力データへのアクセス性を高めるデータプラットフォーム構想なども視野に入れ、3D 都市モデルの作成効率化を通じて、豊かな生活と多様な働き方を支える日本の都市デジタルツイン実現と地理空間情報ビジネスの発展に貢献してまいります。

リアルグローブ ニュースリリース：https://realglobe.jp/news/news.html?pr_id=434451

アジア航測 ニュースリリース：https://www.ajiko.co.jp/news_detail/1610

■問い合わせ先

株式会社リアルグローブ SBIR 担当

メール：3dauto-info@realglobe.jp 担当：篠田・高塚

5. お知らせ・AIGID 幹事会員募集

一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会（通称：AIGID）では現在幹事会員を募集中です。

DX 等に後押しされる形で、地理空間業界のニーズと重要性は日々高まってきております。市場規模が拡大するなか個々の組織が独自に事業活動することも重要ですが、世界状況を鑑みても協調領域の拡大・強化は重要となってきました。

そこで、私共 AIGID では情報発信と連携強化を前提とした会員規定の見直しを行い、新たにご参画いただける幹事会員を募集させていただき運びとなりました。

ご賛同ご検討いただける企業・団体のご担当の方ぜひ下記宛お気軽にお問い合わせください。

■お問い合わせ先

担当：AIGID 事務局長 山本 office@aigid.jp

AIGID 入会ご案内は[こちら](#)

G 空間情報センターお役立ち情報

◆ G 空間情報センター F A Q は[こちら](#)

法務省登記所備付地図データ関連の情報等、よくあるお問い合わせを掲載しております。

◆ [G 空間情報センターの YouTube チャンネル](#)をご活用ください☆

G 空間情報センターの使い方解説や、最新データセットの公開ご案内等、動画でご案内しております。チャンネル登録いただきますと、新しい動画の公開通知等が取得可能です。ぜひご活用ください。

◆ G 空間情報センターサイトからの[お問い合わせ](#)は、該当のデータセット名と URL を併せてご連絡いただくとスムーズです。

可視化データ例募集！

これまでニュースレターの「注目のコンテンツ」コーナーを発刊当初から掲載しておりましたが、担当者が不在となりました為、この度可視化データ例の募集を行うこととなりました。

G 空間情報センターに掲載されているデータで可視化イメージを作成された方、ぜひこの機会に G 空間情報センターメールマガジン読者にシェアしていただけないでしょうか？

掲載の折には、細やかながらお礼を差し上げます。

■お問い合わせ先

G 空間情報センター メールマガジン担当：保坂 hosaka@aigid.jp

ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5 代々木伊藤ローヤルコーポ 304 号室

メール：info@geospatial.jp

TEL：03-6455-1845

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。